地域の関係機関の皆様

お気軽にご利用ください!

リハビリ総合相談窓口開設!

当院は、リハビリテーション専門病院として、地域の事業所のみなさまからリハビリテーションに関する、さまざまな相談をお受けしております。専門窓口を設置しておりますので、ご心配なこと、お困りのこと、お気づきのことなどがありましたら、お気軽に下記の窓口をご利用ください。

迅速な対応を心がけておりますが、お時間を要する場合もございますので、ご了承のほど宜しくお願いいたします。

相談無料

【窓口】 **牧リハビリテーション病院 地域連携室**

【ご相談方法】 ※下記の①～③どの方法でも結構です。

①電話でのご相談 **TEL.072-887-0065**
月～土(日、祝日除く)、9時～ 16時

②FAXでのご相談 **FAX.072-887-0130**
24時間稼働

③メールでのご相談 a.namoto@maki-group.jp

相談例

- □摂食嚥下(えんげ)機能全般について
- □理学療法、作業療法、言語聴覚療法の詳しい内容について知りたい
- □利用者さんが退院後、ADLが上がらない
- □自宅でも簡単にできるリハビリを知りたい
- □在宅でのカンファレンスに参加してほしい
- □リハビリに関する講演会や勉強会をしてほしい
- □栄養指導についてなど

病院周辺の拡大図

アクセス

[電車の場合]

■大阪メトロ長堀鶴見緑地線「門真南駅」下車2番出口上がってすぐ。

[お車の場合]

■近畿自動車道をご利用の方は、北行き「大東鶴見」南行き「門真」出口を降りてください。

■第2京阪道路をご利用の方は、西行き「第2京阪門真」出口を降りてください。

■中央環状線〈堺方面〉からお越しの方は「ラクタブドーム」の看板が見えたら「茨田大宮1交差点」を右折し、セブンイレブンの角を左折後直進、1つ目の信号を左折し更に左折してください。

■中央環状線〈守口・大日方面〉からお越しの方は「ラクタブドーム」の看板が見えたら側道へ入り、1つ目の交差点「第2京阪側道へ」を左折後すぐ「三ツ島」より側道へ入り、1つ目の信号を右折(高架をくぐり)更に右折後直進してください。

■1号線(第2京阪側道)〈枚方方面〉からお越しの方は、北島東交差点後、「三ツ島」より側道へ入りそのまま直進してください。

病院敷地内に駐車場がありますが、少数のため空きが無い場合はラクタブドームのコインパーキングをご利用ください。

[お問い合わせ先]

医療法人 清翠会 **牧リハビリテーション病院**

〒571-0015 門真市三ツ島3丁目6番34号

URL http://www.maki-group.jp

TEL.072-887-0010

Medical for Happiness
牧ヘルスケアグループ 50th

牧リハビリテーション病院 広報誌

まきりは

VOL. 17 令和2年1月

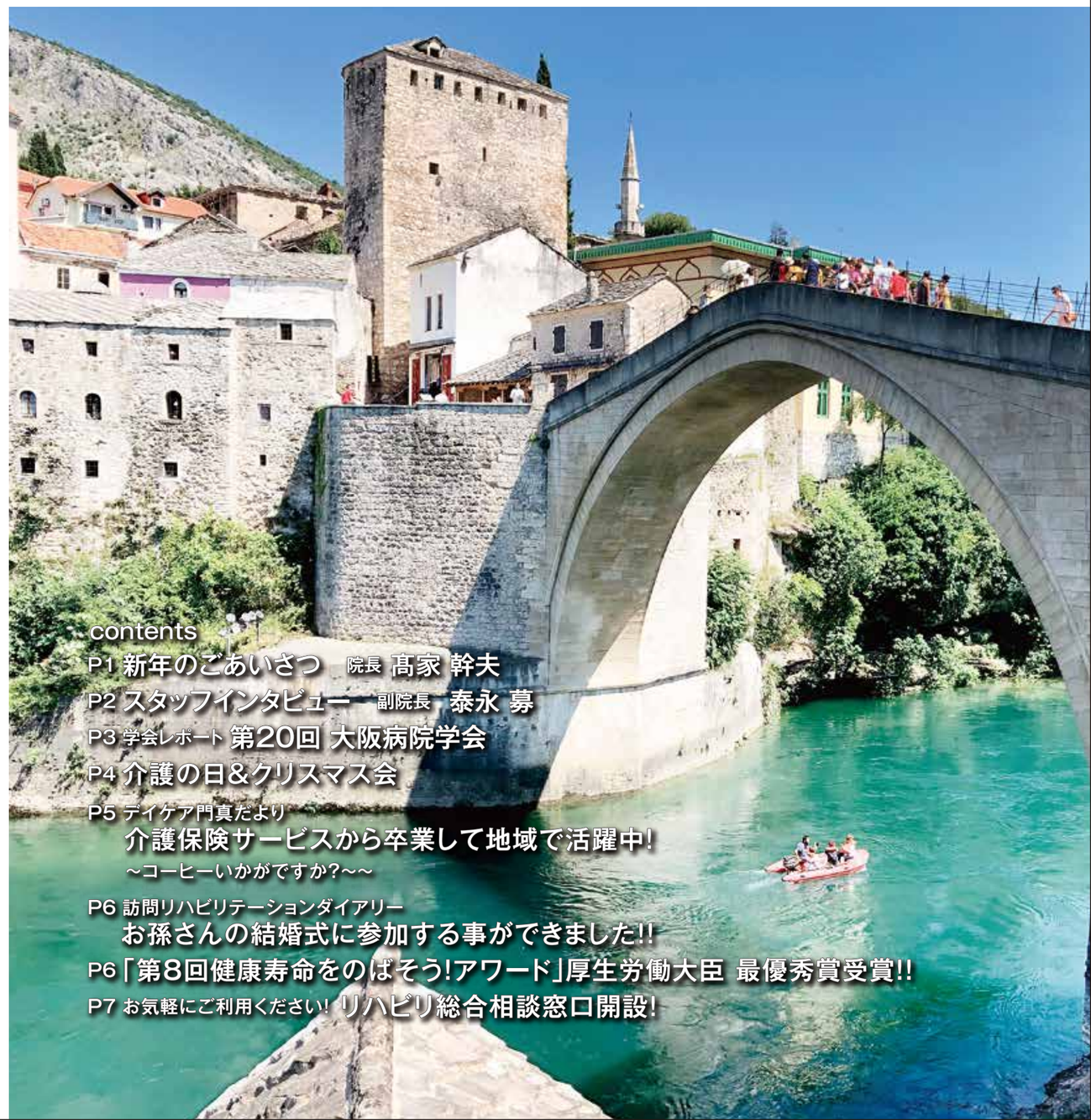
私たちの理念

Medical for Happiness

一人ひとりの幸せな人生を支えるために

牧ヘルスケアグループは、
地域の医療機関、介護事業所などと密接な連携をとり、
予防から急性期、回復期、維持期、在宅の機能を担う
「地域完結型の保健・医療・福祉複合体」として、
みなさまの幸せな暮らしを支え続けます。
私たちは「Medical for Happiness」の実現をめざしています。

牧ヘルスケアグループはおかげさまで50周年を迎えました。
これからもみなさまと共に歩んでまいります。



contents

P1 新年のごあいさつ 院長 髙家 幹夫
P2 スタッフインタビュー 副院長 泰永 募
P3 学会レポート 第20回 大阪病院学会
P4 介護の日&クリスマス会
P5 デイケア門真だより
介護保険サービスから卒業して地域で活躍中!
～コーヒーいかがですか?～～
P6 訪問リハビリテーションダイアリー
お孫さんの結婚式に参加する事ができました!!
P6「第8回健康寿命をのばそう!アワード」厚生労働大臣 最優秀賞受賞!!
P7 お気軽にご利用ください! リハビリ総合相談窓口開設!

あけましておめでとうございます

今年が皆様にとってより佳き年になりますように!

さて、写真はボスニア・ヘルツェゴビナで第4の都市といわれるモスタルの旧市街にある“スタリ・モスト”です。“古い橋”を意味し、この地域を支配していたオスマントルコにより1557年から9年の歳月をかけて建造されたもので、モスタルという地名もこの橋に由来するそうです。

ユーゴスラビア崩壊後のボスニア・ヘルツェゴビナ紛争で、イスラム系のボスニア文化に反発するクロアチア系カトリック民兵らが1993年に破壊してしまいました。その後、2004年に復興工事が完了した際はTVや新聞のニュースで大々的に取り上げられ、ユネスコの世界遺産に認定されました。

この橋の下を流れているのはネレトヴァ川です。この川は、クロアチアを潤しながらアドリア海に注ぎます。私は、この川の名を目にした時に思わず“ネレトヴァの戦い”が浮かびました。第二次大戦末期にここから北東のサラエボ方面上流で掛かる唯一の橋をめぐって攻防があり、当時パルチザン軍元帥チトー（後にユーゴスラビア大統領)がその橋を爆破し、圧倒的優勢にあったドイツ・イタリア・クロアチア枢軸軍を幻惑して勝利を勝ち取りました。その映画化で、ユル・ブリンナーやクルト・ユルゲンス、オーソン・ウェルズらが出演していました。そういえばと思い出される方もおられるでしょう。それだけでなく、この地域はヨーロッパの火薬庫といわれる程に民族紛争が絶えず、オーストリアーハンガリー皇嗣が暗殺され第一次大戦のきっかけになったことは近代史でも学びましたね。

日本にいるとこのような民族間の紛争はピンと来ないものですが、最近の欧米での排他運動やそれを煽る某大統領の傍若無人ぶり、日韓関係のもつれなど心が痛む紛争が世界を覆うようになってきました。

昔、人類みな兄弟というフレーズが流行りましたが、今年は謙虚で仲間を大切にするネズミ年。世界が再び善意の方向に向かい、民族に関らず皆がお互いを認め合える節目の年になりますよう切に祈ります。

令和2年 正月　　院長 髙家 幹夫

STAFF INTERVIEW

副院長

泰永　募

TSUNORU YASUNAGA

2019年8月に牧リハビリテーション病院に副院長として着任した、泰永 募です。

1984年に京都大学を卒業し、整形外科教室に入局しました。整形外科は、小児から高齢者まで幅広い年齢層の患者さんを対象とし、また脊椎から四肢にかけて、つまり頭部胸腹部以外の体すべてを診なければなりません。とてもやりがいのある診療科と考え、専攻しました。

日本で、回復期リハビリテーションの役割は極めて大きく、患者さんの自立をどのようにサポートするかが大切になります。そして、回復期を担当する医師として、医療政策だけでなく介護政策にも精通している必要があります。

さて、回復期リハビリテーションの整形外科対象疾患は大腿骨骨折・脊椎骨折・人工関節術後・脊椎術後などであり、私の得意分野です。今までの急性

急性期の知識・経験を活かしつつ回復期や介護の追究で患者さんの自立をサポート。

大学病院で1年、浜松労災病院で2年、大津赤十字病院で9年、京都市身体障害者リハビリテーションセンター附属病院で3年、整形外科全般を学びました。その後、済生会野江病院に部長として、1999年から20年間勤務しました。京都大学では伝統的に脊椎と人工関節を重要領域として継承しており、私もそれらの分野を得意としてきました。そして永年、手術を中心とした急性期医療に明け暮れていました。

しかしながら数年前に、(個人的な話で恐縮ですが)私の両親の入院・介護を経験し、「急性期医療だけでは患者やその家族は幸せになれない。むしろ、その後の方が大切だ。」と、初めて思い知らされました。ご存じのように、高齢化の道を突き進んでいく現代期の知識・経験を活かしつつ、新たに回復期や介護の勉強をして、患者さんがご自宅に帰られるお手伝いをさせていただく所存です。

上記のような所信がありますが、仕事や勉強ばかりしているわけではありません。休日には、ゴルフ・鉄道関連・囲碁を嗜んでおります。体を使う趣味も、体を使わない趣味も持ち合わせておりますので、いろいろな催しに参加したいと思っています。

仕事もプライベートも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【資格】日本整形外科学会専門医、日本リウマチ学会専門医、日本リハビリテーション医学会認定臨床医 など

学会レポート

第20回 大阪病院学会

[学会テーマ] 大転換期の日本と医療 ー輝かしい未来をめざしてー
[シンポジウムテーマ] 輝かしい未来をめざして、今なすべきこと
[会　期] 2019年10月27日(日)
[会　場] グランキューブ大阪(大阪府立国際会議場)

基本的なコミュニケーション技術の重要性。

今回、「効果的な訓練技術習得のための勉強会～明日から実践できるリハビリを目指して～」という演題で発表させて頂きました。

失語症患者さんへのコミュニケーション技術は臨床経験の積み重ねが必要です。今回は若手STが、すぐに実践できる、聞く・話すコミュニケーション技術の獲得を目指した勉強会を行いました。

専門的な知識だけではなく、基本的なコミュニケーション技術の重要性を改めて感じる機会となりました。

言語聴覚士 田上 滋之

優秀賞 受賞!!

改めて気づいた、この仕事の素晴らしさ。

今回私は、両足が麻痺して歩けなくなった患者さんが自立して歩けるようになった事例について発表させて頂きました。

半年前から準備を始めて、提出に至るまで先輩や上司にアドバイスを受けながら何度も修正し完成しました。準備をする中で、自分の考えを改めて見つめ直す事により、過去に自分が担当した患者様への評価や治療を振り返ることができました。

発表を通して、自分が施術した治療が患者さんの今後の生活に活かせる素晴らしい仕事だと改めて気づく事が出来ました。この経験を、今後に生かしてより良い治療を患者さんに提供していきたいと思います。

理学療法士
辰巳 優季

患者さんの日記などから感じた、様々な葛藤や日々のリハビリの大変さ。

今回大阪病院学会では、右手が麻痺してしまった患者さんと毎日の生活の中でどれくらい右手を使えたかを記載する日記と、麻痺した右手の使い方について一緒に考える機会を作ったことについて発表しました。

始めた当初はご飯を食べたり、歯を磨いたりするなど様々な場面で左手を使っていましたが、日記や評価したことを用いながらリハビリを行い、少しずつ生活の中で右手を使う場面も増やすことが出来ました。

今回の発表を通して、患者さんの様々な葛藤や日々のリハビリの大変さを日記などから感じ、とても良い経験となりました。
今後もより一層頑張っていきたいです。

作業療法士 松田 那帆

11月11日は 介護の日

看護部

「知って得する介護の日」をキャッチフレーズに、11月2日、介護の日イベントを開催しました。

1.快適オムツ交換

オムツフィッターの資格を持つ介護士より、種類やサイズの選び方といった話しから実際にオムツを付ける時の注意点を、実演を交えながら解説しました。患者さん、ご家族からの質問もあり、とても熱心に聞いて頂けました。

2.冬のお肌ケア

肌の構造や、肌荒れが何故起きるのかという説明をはじめ、冬の肌荒れ対策について説明しました。また、お土産としてお配りした肌荒れ防止用のローションは、とても喜んでもらえました。

今後も、患者さん、ご家族が楽しく介護についての知識を深めることの出来るようなイベントを企画していきたいと思います。

クリスマス会

牧リハビリテーション病院では毎年12月にクリスマスイベントを実施しています。

それぞれの病棟で一生懸命練習したハンドベルの演奏を披露しました。クリスマスにちなんだ曲を、患者さんと一緒に合唱し、ハンドベルの綺麗な音色とみんなの歌声が合わさり素敵な空間になりました。

その後に3階病棟はフウセンを使ったバルーンアートを患者さんと一緒に楽しみました。

4階病棟はピアノ演奏と双六ゲームで盛り上がりました。

最後に、担当看護師・介護士からメッセージカードとプレゼントをお渡し、「ありがとう大事にするね」と喜んで頂けました。

デイケア門真だより

介護保険サービスから卒業して地域で活躍中!

～コーヒーいかがですか?～～

コーヒーの香ばしい香りが広がる癒しの空間の中で、エプロン姿もダンディなTさん。
ボランティアとして通い慣れた介護施設で美味しいコーヒーを淹れて下さいます。今回はTさんがご活躍されている地域貢献活動についてインタビューさせていただきました。

Q 現在取り組んでいる地域貢献活動について教えてください。

A 毎月、介護施設でコーヒーを淹れたり、認知症サポートの一環で栽培した綿花を紡いだりするボランティア活動をしています。そこで声を掛けられて、認知症サポーターの講義に行き、認定証をもらいました。地域の介護予防教室や勉強会にも参加してます。結構、門真市の活動って色々あるんですよ。こういう所って男性が少ないんでね、声かけてくれることも多いんです。最近はRUN伴でみんなと完走しました。予定がない日は本を読んだり、嫁さんと散歩しています。あ、卒業したデイケアにもたまに顔出してます。持参した脳トレ問題を一緒に考えたりね。「いつでも来てくださ～い」って声かけてくれるから、定期的に来てます。

Tさん
約10年前に脳梗塞・2年前に膝の手術を行い、リハビリを続けてきたことで、外出機会が増え、今秋めでたくデイケア含め介護保険サービスからもご卒業されました!

記事担当 支援相談員:宇田 真弓(うだまゆみ)

Q 地域活動のきっかけは?また、心掛けていることはありますか?

A きっかけは地域包括支援センターの方が「こんな活動に参加してみませんか?」と誘ってくれたことです。いざ行ってみるととても良かったんです。地域イベントの情報交換もできるし、何かと繋がっています。心掛けていることは、とにかく自分も楽しむこと!何事も楽しくなければ、やっぱり続かんしね。それが一番じゃないかな。

Q 今後の目標を教えてください!

A 目標かぁ…やっぱり、嫁さんと仲良く長生きしたいに尽きるなぁ。孫たちの成長も見守っていきたいしなぁ。そのためには、自分がまず元気でおらなあかんやろ～だから頑張れるんかな。なので、誘われたら行ける範囲でどこでも行きますよ(笑)。

終始ニコニコ笑顔で、和やかにお話して下さいました。卒業されたTさんと現在もこうして繋がっていられるのは、10年間紡いできた絆と、誰からも愛されるようなお人柄のおかげであると思います。これからもお元気に過ごしていただき、地域活動を続けていけるように応援しています!

訪問リハビリテーションダイアリー

お孫さんの結婚式に参加する事ができました!!

重度の変形性膝関節症のため痛みが強く、外出する意欲が低下していたIさん。2019年11月「孫の結婚式に参加できました!!」と嬉しい報告を頂きました。

当初、結婚式への参加をご家族から誘われていましたが、「椅子にずっと座り続けると疲れる」「膝が痛くて動けない」など身体面の理由でお断りされていました。しかし傾聴を重ねると「家族に迷惑をかけてしまうから」と、“漠然とした不安”を抱えておられ、これが一番の問題点であることが分かりました。

これ以降、訪問リハビリの目標を「孫の結婚式への参加」とし、下肢筋力の向上、ご家族への疼痛ケア方法の指導などを行いました。すると徐々に状態は改善。秋口頃には家族付添いのもと結婚式の洋服をご自分で選びに行かれるなど、式の日が来るのを楽しみにされるようになり、笑顔も増えました。

当日、無事ご本人とお孫さんご夫婦、ご家族の皆様が幸せな時間を過ごすことができたと伺い、担当セラピストとして大変嬉しく思いました。

今後もIさんの笑顔を見られるよう頑張りますので、“やってみたいこと”をどんどん作って下さいね!!

訪問リハビリテーション門真 作業療法士
瀬筒 和俊(せづつかずとし)

ゆめ伴プロジェクトin門真「第8回健康寿命をのばそう!アワード」厚生労働大臣 最優秀賞受賞!!

今、門真市では『ゆめ伴プロジェクトin門真 実行委員会』が中心となり、“認知症になっても輝けるまち”をめざして、認知症の人や高齢者が地域社会で輝ける場や活動を創出することを目的に、さまざまなプロジェクトが行われています。

そして、11月11日この活動が認められ、厚生労働省『第8回健康寿命をのばそう!アワード』厚生労働大臣 最優秀賞を受賞!!という嬉しいお知らせが届きました。

プロジェクトのさまざまな活動は、認知症の人や高齢者と市民、介護、医療、福祉、行政、企業など街の多様な団体が手を取り合い、共に楽しむことで心も身体も健康で生き生きとした暮らしの実現につながっています。

当院も、そのプロジェクトの一つである「RUN伴+門真(オレンジ色のTシャツを着て、共にまちを歩き、ゴールを目指すスポーツイベント)」に初開催から協力し、今年度も南コースのスタート地点および実行委員として参加しました。

左から名本、髙家院長、森さん(ゆめ伴プロジェクト総合プロデューサー)、東中屋さん(RUN伴+門真実行委員長)、紙谷

参加者の中には、完走を目標にリハビリや自主トレーニングに励んでこられた方もあり、ゴールの瞬間の晴れやかな笑顔に大きな感動を受けました。これからも、このまちの皆さんと共に楽しみ、共に成長できる病院でありたいと思います。

地域連携室:名本 あゆみ(なもとあゆみ)

2019年11月10日 RUN伴+門真 南コース スタート地点